

# いまだからいって同和教育を

同和教育は、学校や地域だけでなく企業でも重要な取り組みとして行われています。

今回は、このたびの全国人権・同和教育研究大会で事例発表を行った、やまこう建設株式会社を訪ね、田中専務と田中総務部長にお話をうかがいました。

どんな研修をしていますか

他県や他の事業所、また異業種の人も多数参加して工事現場ごとに研修しています。そのため、同和教育に対する認識もさまざまですので、まずなぜ研修をするのか、研修の目的や基本的な考え方を大切にして実施しています。工事現場での人間関係は仕事の進行や安全などに大きく関わるため、研修を通して意思の疎通を図り豊かな人間関係づくりをしています。

どんな思いで同和教育に取り組んでいますか

当社は、鳥取市同和問題企業連絡会に設立当初から加入し、同和問題解決の取り組みとして研修を続けてきました。近年は、「二十一世紀は心と環境の時代」「企業は人なり」という会社の人づくりの考え方に基つき、さらには社会情勢も人権や環境に対する関心が高まってきたことから、同和教育を社員研修の重要な柱と位置付けています。

同和教育の取り組みでどう変わってきましたか

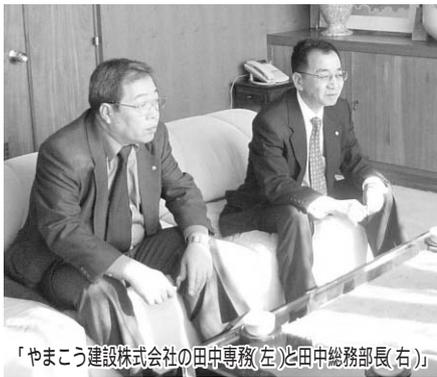
今年度初めに実施した「同和教育・人権問題に関わるアンケート」からも分かったことですが、学習を積み重ねることにより人間関係が良くなり、話し合える雰囲気が出てきました。

経営者、管理職、社員が一体となり問題解決に取り組んで行こうとするなど、次第に人権意識が高まるとともに広がっています。

今後どう取り組んでいきますか

受身の研修ではなく、意見交換を主体とした対話型の研修を増やしていきたいと思えます。そのためにも指導者の育成が必要です。

また、職場で学習したことを家庭、地域へと生かしていきたいとも考えています。



「やまこう建設株式会社の田中専務(左)と田中総務部長(右)」

建設業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。が、こういつ時だからこそ、さらに社員の人権感覚を高め、地域社会に信頼される企業になっていく必要があると思います。同和教育は、今後も経営方針の重要な柱と位置付け推進していきたいと考えています。